

令和元年度授業改善推進プラン【5年生】

教科	児童の課題	具体的な改善のための方策
国語	△文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • 短い文章から始め、書く機会をなるべく多く確保する。作文指導の中で、書き方の手順を児童が常に確認できるように示す。
社会	<p>△学習問題に対して自分の考えをまとめることに苦手意識をもつ児童が多い。</p> <p>△問題解決に向けて、適切な資料を選択し、それを活用できる児童が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 調査や取材から分かったことや考えたことを、文章だけではなく、図や表、グラフなどに表現させることができるように指導する。 • 複数の資料を提示し、その中から適切な資料を選択して情報を取り出したり、比較・関連付けたりする場面を授業の中に意図的に設ける。 • 児童に、複数の資料の中から「なぜその資料を選んだか」「どのような情報が取り出せたか」「何と何がどのように似ているか、どのように違うか」を発表させるとともに、そのように資料から読み取ったポイントを説明させた上で、ICT 機器で拡大提示して確認するなど、資料をもとに考えさせる工夫をする。
算数	<p>△自分の考えをノートに表現することができない児童が多い。</p> <p>△繰り上がり、繰り下がりや、掛け算九九など、基本的な計算が身に付いていない児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 既習事項を確認し、考えの根拠を捉えられるようにする。一人一人の児童のつまずきに合わせた声かけを工夫し、交流することで他の児童の図や表、グラフなどを用いて整理してまとめるよさに気付かせていく。 • 学校では朝学習で四則計算の問題に取り組み、家庭学習では四則計算の問題の取組を行うように保護者に協力をお願いをしていくことで、基礎学力の向上を図る。
理科	△実験から考えられること（考察）を書くことを苦手としている児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • まず、実験の目的を明確にし、必ず実験結果の予想を立てさせる。さらに現象を視覚化して統合的に捉えさせ、現象の要因や規則性を推論できるようにペア学習を取り入れていく。
音楽	△一人一人はよく声を出そうとしているが、周りを意識しながら合唱することができていない児童もいる。楽器演奏に苦手意識をもつ児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • 腹式呼吸や母音、子音に気を付け、響きのある歌声で歌う。 • 楽器の練習では児童がわかりやすくリズムや楽譜の表記を工夫し、鍵盤ハーモニカなどは担任も T2 として指導している。
図工	<p>△自ら考えて材料や道具の特徴を生かすことに課題がある。</p> <p>△既習事項の技能を生かすことがあまりできていないところに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 材料や道具になれるスモールステップの課題を行い、特徴を捉えられるようにする。一人一人の理解に合わせて声掛け、支援を行う。 • 既習事項の技法や道具の使い方などがいつでも確認できるように、資料を掲示しておく。
体育	△少しでも苦手意識があると、すすんで取り組みなくなる児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人の児童が自分のめあてをもって活動に取り組めるようにするために、共に学び合う時間の確保、できることから少しずつ段階をふんだ児童の実態に合った場の設定を行う。
家庭科	△裁縫など手先を使うことを苦手とする児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • 個に応じた指導ができるように、個々の児童の実態を把握し、ペア学習や保護者の協力も得ながら、できることから少しずつ段階を踏んでできるようにする。
外国語活動	△英語を他の児童の前で話すことに苦手意識をもつ児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> • 相手に自分の思いが伝わる楽しさを感じる経験を多くもたせる機会を作るとともに、その時の気持ちの振り返りを丁寧に行う。